

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1980号 2009年07月21日(火)

《 higher stock mart and less higher dollar 》

今週はもう既に始まっているので、予定を中心に手短かに。先週のレポートで先週について「3月から6月まで続いた株高・円安相場の修正として6月末から続いていた調整が一巡したのか、まだ途上にあるのかの判断を迫られる週となろう」と書いたが、今朝の段階でこの問いに回答するならば、「調整は一巡した」「新たな株高、円安に歩み始めた」と言えるだろう。その株高・円安の強さには疑念が残るが。

週明け月曜日のニューヨークの株式市場はダウで104ドル21セント上昇。これで6営業日連続の上げ。その結果ダウの引値は8848ドル15セントとなり、これは今年1月以来半年ぶりの高値。決算が好調な金融株が上げて「金融不安懸念」が後退し、加えて景気回復期待から幅広い銘柄が上げた。一方テクノロジー株が多いNASDAQは9営業日続伸で、週明け月曜日は22.68ポイント高の1909.29。同指数は昨年10月以来の高値を更新した。東京市場に常にある「またニューヨークは崩れるのではないか」という懸念をあざ笑うような上昇だった。

一方、外国為替市場では対他通貨を中心に円安が進行した。円は対ドルでは94円台に移行した程度で目立たないが、ユーロ・円、オーストラリアドル・円などを見ると、軒並み直近の円高値からは目を見張るような円安水準になっている。もっぱら今週の月曜日に東京市場が休みの間にアジア、海外市場で進行したものだ。

重要なのは、ニューヨーク株式市場の6日～9日続伸という強い展開にもかかわらず、ドル相場そのものはあまり強さが鮮明ではなかった、というよりも「弱かった」と言うことだ。ユーロなどの他通貨の対ドルでの強さが目立ち、具体的に週明けの市場を見ると、「CITグループが破綻を免れそうだ」というニュースが、「危機通貨」としてのドルや円への需要を削ぎ、ドルは対ユーロでは1.4250ドル(月曜引値)前後となり、これは6週間ぶりのユーロ高・ドル安だった。このニュースはまた、他通貨・円での先に述べた大幅な円安を誘発した。

同じ「(ここ数日での)弱い通貨」としてドルと円の関係を見ると、この文章を書いている今朝7時過ぎの段階では、ドル・円相場は94円丁度がらみになっている。これは日本市場の夜間に94円台の後半にまで進行していたドル高・円安から見ればかなり円高の方向に動いている。

ドルの全般的な動きを見ると、ニューヨークの株式市場の強さほどには外国為替市場で

はドルに対する強気な見方が戻っていない、ということだ。こうした状況は今週も続く可能性がある。今週は週明けこそニューヨークの株は続伸したが、既に6営業日も上伸を続けていることを考えれば、ニューヨークの株がいったん下がる可能性が高い。その段階で、ドルは対円でも弱さをぶり返す可能性がある。しかしニューヨークの株の基調は強いと考えられ、それがドルの底意を下支えするだろう。

今週の主な予定は以下の通りです。

- | | |
|----------|--|
| 7月21日(火) | 衆議院解散へ
6月コンビニエンス売上高
大証が外国為替証拠金取引FX市場開設
6月北米半導体製造装置BBレシオ
バーナンキFRB議長議会証言(上半期の金融政策に関する報告書を下院金融サービス委員会に提出、出口戦略について説明がある可能性も) |
| 7月22日(水) | 米5月FHFA住宅価格指数
バーナンキ米FRB議長議会証言(上院銀行委員会) |
| 7月23日(木) | 6月貿易収支
6月日本製半導体製造装置BBレシオ
米6月中古住宅販売件数 |
| 7月24日(金) | 5月全産業活動指数
独7月Ifo景況感指数
米7月ミシガン大学消費者信頼感指数(確報) |

今週はバーナンキが議会で何を言うのかなどが注目だ。直近のオバマ大統領の支持率は59%になって、60%を割った。日本における首相支持率を知っている身としては「依然として高い」と感じるが、「人気のオバマ」という構図が徐々に時間の経過とともに変わってくる可能性は頭に入れて置いた方が良さそう。いずれにせよ、オバマの支持率低下は「経済」を背景としているだけに、今週も経済指標からは目が離せない。

今週既に発表された指標としては、米6月コンファレンスボード景気先行指標総合指数は0.7%上昇(5月は改訂で1.3%の上昇)で、これは市場の予想を上回った。

《 have a nice week 》

三連休はいかがでしたか。とにかく車が混んでいた週末でした。あとで聞いたのですが、夏休みの開始と重なったようで(もう子供が大きいので知りませんでした)、渋滞があちこちで。私は500キロほど連休中に移動しましたが、基本的には日本道路交通情報センター(<http://www.jartic.or.jp/>)のサイトを見ながら移動したので、渋滞には巻き込まれず。

それにしても、今朝の一番傑作の発言は「北朝鮮は大人にかまってもらいたい子供のようなもの」「かまう必要はない」「アメリカは北朝鮮の軍事的能力を良く知っている」というヒラリー国務長官の一連のインドでの発言でしょうか。ちょっと笑ってしまいました。「その通り」だと。

その前、日曜日の深夜の楽しみは全英オープンで、最後まで見ていてずっとトム・ワトソンを応援していたのですが、プレーオフは酷い展開に。それにしても、プレーオフ前18番の第二打が少し短くグリーンからこぼれなかったら、返しの第三打がもうちょっと弱かったら、プレーオフの必要もなくワトソンが勝っていたのに。

9月に60歳のワトソンは、70年代の後半に筆者がアメリカにいるときが最盛期だった。ニクラウスとの戦いで、「帝王」(ニクラウス)から「新帝王」(ワトソン)に変わる時期だった。よく見ました。週末に。今回優勝すれば、メジャー最高齢の勝者になるはずでしたが。

18ホールを闘ってワトソンは疲れていましたね。その前3日間もあったし。スコットランドの海辺は寒くもなっていたようで、風も強くて、プレーオフではトム・ワトソンはショットがぶれまくってしまった。やっている本人もちょっと自分がかかりした雰囲気だった。しかし最後まで闘いました。笑顔も見えたし、冗談も言っていた。

それにしても、人間は知っている人を応援したがる。本当は新しいチャンピオンの登場を祝ってやらねばならないのですが、「今回はワトソンに」とずっと思って応援していた。18番を迎えたときには「決まった」と思ったんですがね。勝負は最後まで分からない。「お疲れ様」ということです。ラウンド・レポーターをやっていた青木さんの目が、最後はちょっと赤かったような……。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》